

修士論文要旨フォーマット

題目、氏名、指導教員名は 12 ポイント・4 行どり、他は 10 ポイント・36 行どり
行数の設定ができない場合、行間を 16pt として、およそ 40 行になるよう調整すること
余白：左 25 ミリ、右 20 ミリ、上 30 ミリ、下 30 ミリ
紀要に直接写真で印刷するので、レーザープリンターで印刷のこと
英文の場合、Title, Name and Text : Times 12pt

非周期構造媒質における中性子弾性・非弾性散乱効果

目白花子（指導教員 成瀬春江・渋沢仁蔵）

〔序〕近年、非周期構造を持った誘導体中における中性子の多重散乱・干渉効果が、中性子バンド効果を実現するという観点から注目を集めている。〔1〕中性子に対するバンド構造は、原子配列などの周期的ポテンシャルの影響を受け、・・・・・・・・

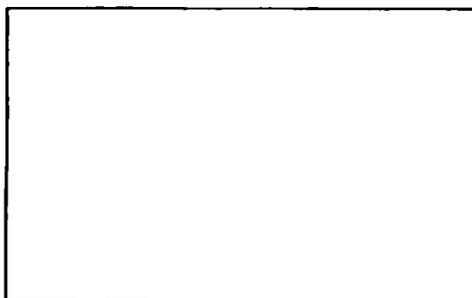
（〔序〕、〔目的〕、〔背景〕など イントロダクションに続く構成は自由に定めてよい。下記は一つの例）

〔方法〕直径 3.1 mm の SiN₄ 球（誘電率 2.942）や直径数 μm の粒子のランダム配列系を対象として、その中性子散乱を理論的に解析を行うこと・・・・・・・・

（〔方法〕、〔実験〕など方法論を記述）

〔結果と検討〕入射中性子は、物質のもつ電子に周期的な相互作用を及ぼし、強制振動を引き起こす。計算の結果を図 1 にしめす。・・・・・・・・

（〔結果〕と〔検討〕を分けることも考えられる）



本研究の計算結果と実験結果の一致は、
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。
（図中の文字はあまり小さくないようにする）

図 1 中性子透過スペクトルのシュミレーション

〔1〕 H. Mejiro, J. Naruse, K. Shibusawa: *J. Biol. Sci.* 123, 1234 (1999).